大糸線に関する議論の現在の状況等について

資料No.1

R6.3.14

1　第４回振興部会以降の状況について

・ 第４回振興部会（R5.5.9）においては、利用促進を進めたい自治体側と、持続可能な路線としての方策を議論したいJR側とで議論の進め方の認識に隔たりがあった。

・ その後、長野県、新潟県の両県では、沿線自治体の意見も踏まえ、振興部会の議論を前に進めるべく、JRと何度も協議・調整を重ねてきたところ。

2　関係者が一体として取り組んでいく内容

・ 大糸線の活性化のためには、北陸新幹線の敦賀延伸を契機に、関西からの観光客を呼び込むことが重要であることから、まずは、本格的な利用促進策・利便性向上策を自治体、JRが協力して実施する。

・ 大糸線の持続可能な方策等については、今回の利用促進策・利便性向上策を実施した後、一定の期間内にとりまとめていく。

・両県・ＪＲによる三者の調整を継続しつつ、引き続き振興部会等を中心として議論を進めるべく、構成員の格上げ等を含め検討。

3　本日の確認事項

・ ２の内容について、沿線自治体やJR、観光協会や商工会議所等も含めた関係者で、まずはしっかりと大糸線の利用促進、沿線の活性化に取り組む。